

昭和四十七年九月招集

第三回館山市議定会定例会會議録第四号

館山市議 会

目次

日時	場所	出席議員	欠席議員	出席説明員	出席事務局職員	議事日程	開議	認定第一号ノ認定第七号(質疑)	勳議	決算審査特別委員会の設置・委員の選任・付託	延会	本日の会議に付した事件
.....
一	一	一	一	一	一	二	二	二	二	三	三	三

昭和四十七年九月十三日(水曜日) 午前十時

一、館山市役所議場

一、出席議員 二十七名

一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	二三	二四	二五	二六	二七	二八	二九	三〇	
吉田 勇治郎	流山 源次郎	近藤 好雄	渡辺 昭夫	渡辺 軍治郎	藤田 益治	伊賀 多朗	辻井 諲爾	安西 益男	鈴木 市蔵	菊井 敏博	安沢 徳順	望月 照正	遠山 ヨネ子	三	九	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六
林 豊	鈴木 稔	栗原 一雄	石井 武敏	山本 昇	五十嵐 昇	和田 一郎	宮野 敏朗	君塚 喜三	田村 源治郎	西村 真次	飯田 義男	田中 禄郎	島野 茂樹郎	三	九	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六

一、欠席議員 三名

九番 辻田 実
二九番 秋山 六三郎
一九番 島野 茂樹郎

一、出席説明員

第一号に同じ

一、出席事務局職員

第一号に同じ

一、議事日程(第四号)

昭和四十七年九月十三日午前十時開議

日程第一	開						
	認定第一号	認定第二号	認定第三号	認定第四号	認定第五号	認定第六号	認定第七号
	昭和四十六年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について	昭和四十六年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について	昭和四十六年度館山市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について	昭和四十六年度館山市と畜場特別会計歳入歳出決算の認定について	昭和四十六年度館山市休養施設特別会計歳入歳出決算の認定について	昭和四十六年度館山市ユースホステル特別会計歳入歳出決算の認定について	昭和四十六年度館山市西部簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について

開

議 午前十時五分開議

○議長（吉田勇治郎君） 本日の出席議員数二十四名、これより第三回市議会定例会第四日の会議を開会いたします。

本日の議事はお手もとに配付の日程表により行ないます。

議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第一、認定第一号乃至第七号昭和四十六年度一般会計並びに特別会計決算を一括して議題といたします。

す。

認定第一号	認定第二号	認定第三号	認定第四号	認定第五号	認定第六号	認定第七号
昭和四十六年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について	昭和四十六年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について	昭和四十六年度館山市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について	昭和四十六年度館山市と畜場特別会計歳入歳出決算の認定について	昭和四十六年度館山市休養施設特別会計歳入歳出決算の認定について	昭和四十六年度館山市ユースホステル特別会計歳入歳出決算の認定について	昭和四十六年度館山市西部簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について

質疑応答

○議長（吉田勇治郎君） 質疑に入ります。御質疑願います。

なお申し上げますが、質問の際はページをお示めし願いたいと思います。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 三ページですが、いつも食糧費、交際費を問題にしているんですが、一款の一一節の食糧費ですが、食糧費は各款にわたって出ていますが、昨年度と比較しますと四十二万七千三十九円の減額になっております。この中で農業振興費の中の食糧費、それから予防費の中の食糧費、議会の食糧費、

こういうところは増額になっております。

全体とすれば、無駄使いをやめて市民の為にそれを使えというよりな立場から、会議用の食糧費の全廃を主張してきたわけでありますが、四十六年度の決算ではだんだん節約する方向にきておりますが、特に多い議会の食糧費について、聞くところによりますと、議会の食糧費は議員の会議が開かれているときに昼食代として使われているわけです。議員は歳費をもらっておりますので自分で食べたものは自分で払うということが当然だと思ひますので、この議会食糧費は、ほかの食糧費を節約するといひ、そういう立場からみましても、特に自粛して全廃すべきだといひふりて考へておりますが、この点はどういふふうに考へているのか。

それから交際費についてですが、これは三二ページの二款一〇節にあります市長交際費、市交際費ですが、これは前年度と比べますと市長交際費で二十万、市交際費で六十五万八千九百八十二円減額されております。合わせますと八十五万八千九百八十二円の減になっております。このことはむだな交際費を省いて、それを市民のために有効に使うといひことでは非常に大きな前進であると思ひます。

しかし、この交際費が四十七年度の予算では市長交際費の十万と、市交際費の三十万といふことで四十万減額されておりますがこの八十五万八千九百八十二円減っているといふことからみればもつと交際費は節約できるのではないかといふふうに考へられますので、この内訳と、ただいま申し上げましたようにもつと減らせるのではないかといふことについて御回答願ひたいと思ひます。それから三三ページの一九節負担金の問題ですが、この中の千

葉県市長会負担金四十八万五千七百円計上されておりますが、この種の負担金については相当高額の負担金だと思われまふので、どういふ積算によつてこゝういふ数字が出たのか、もつと減らせるんではないかと思ひますので、その点を質問いたします。

それから三四ページ委託料の問題ですが、町内会長に対する行政事務委託料三百七十三万一千二百五十円が計上されております。これは三月の議会で地方財政法第二十七条の四に違反しているのではないかといふことで追及いたしました。この点についての回答がまだいたされておられませんので、この点についてお聞きしたいと思ひます。

それから四三ページの八節の報償費の問題ですが、納税組合の奨励金として出されております。この奨励金は納税組合だけではないに国民年金、国保会計、合わせまして千二百二十二万六千四百十円になっております。これも市の当然行なうべき行政事務を市民に転嫁してゐるのではないかといふことで、これも地方財政法第二十七条の四に違反してゐるのではないか、こゝういふふうに考へますので、この点についても御説明を願ひたいと思ひます。

五二ページの三款一九節の補助金の問題ですが、交通遣児手当二十四万の予算に対して五万九千円しか支出されておられません。これは予算も少ないけれども支出のほうも非常に少なくなつていますが、この点についての説明を願ひたいと思ひます。それから一一節の需用費、五十万百四十四円の不用額はどうして出たのか、その点についてお伺ひします。これは予算でいきますと六百六十二万六千円の予算が計上されておりますが、三十五万が減額になっておまして、その上に不用額が五十万百四十四

と出ているわけです。この点についての説明をお願いします。

それから五八ページ二目二〇節の扶助費の問題ですが、六百九十五万の減額補正がなされておりまして、さらに十九万五千七百四十四円の不用額が出ております。これは生活保護費の金額が相当あると思うんですが、生活保護者の実人員の増減についてお伺いしたいと思います。

五九ページ、四款衛生費の一九節負担金の問題ですが、三芳病院の五十七万、これはそのほかの負担金にも触れますけれども、三芳水道企業団の四千九百万の負担金、それから学校給食組合の四千五百七十万五千円、こういうような負担金がございます。これらの負担金はどのような案分率によって出されているのか。その点についての御質問をいたします。

六〇ページ、四款衛生費の問題ですが、環境衛生費百二十九万一千円の減額補正がされておりまして、七節の賃金の臨時人夫の賃金ですが、百六十三万七千円の支出に対して九十八万、これは予算で百六十三万七千円、支出のほうで九十八万五千三百九十九円、六十五万一千六百一円の減になっていますが、どういうわけで減が出たのか質問したいと思っています。

六六ページの六款一目の農業委員会費についてお伺いします。農業委員会が一千百六十五万三千円の計上に対して、国のほうの委託金を見ますと、百六十八万一千円が農業委員会の負担金として県から出ています。これで見ますと、かなり大きな超過負担があるのではないかと思いますので、この超過負担をどう解消していくかという点についてお伺いしたいと思っています。

七三ページ、二目の水産業振興費の一九節の補助金の問題です

が、沿岸漁業構造改善対策事業補助金として予算では二百六万六千円計上されておりますが、四百七十万と大幅に増加しております。その内容について御説明をお願いします。

七六ページ、観光費であります。七節の賃金について清掃人夫の賃金が予算では百五十五万含まれておりますが、支出では百二十六万八千四百円と減っております。なぜこういう減が出たのか、その点についてお伺いしたいと思います。

それから八〇ページ、八一ページの負担金の問題ですが、県道の舗装の負担金として一千三十四万一千五百円、館山港の負担金として七百五十万円が計上されております。いずれもこれは県の事業でありますから、いつも負担金の問題を機会あるごとに問題にしているわけですが、地方財政を圧迫するこの県の事業に対して、いまだにこの負担金が市の財政を相当圧迫しておりますので、この負担金を解消していくことについてどういうふうにお考えになられているのか説明していただきたいと思っています。

それから八二ページの三目都市下水路費ですが、百万円の減額補正をしております。その上で十六万一千円の不用額も出ております。下水路の整備は相当遅れていると思うんですが、このように減額、あるいは不用額を出していることは一体どういうことなのか、お伺いしたいと思います。

八九ページの事務局費一九節の負担金の問題で、これは安房農高新築期成会の負担金として四十三万八千円が計上されております。これは地方財政法二十七条の三に違反するのではないかと考えられますので、この点についての御説明をお願いします。

以上、歳出について質問いたします。

〇秘書課長（太田博雄君） 三二ページの交際費についてお答えいたします。

決算書に示めされておりますとおり、本年度は八十五万八千余の節約残をみたわけでございます。これは負担金を大きく削ったということをはじめといたしまして、極力節約につとめたわけでございます。

この面につきましては議会の皆さまの御協力もあつたわけでございますが、中にはどうしても支出しなければならぬかと思ふような点も、大いに無理をいたした点もございますので、その結果四十七年度は四十万減の二百六十万を計上した訳でございます。

交際費と申ししましても、なかなか予定が立てられないものが数多くあるわけでございます。したがいまして追加ということもあり好ましくないという点も一応考えまして、四十七年度の二百六十万と申しますのは過去の四十六年度のものを一応検討いたしました、この程度であつたならやっていたのじゃないかという額を計上したわけでございます。

それから一九節の負担金のうちの千葉市長会の負担金でございますが、これは昨年千葉市長会が東京に事務所を設けまして、その際には補正のほうで負担金を議決前にいただきましたんですが、そのものは県下におきまして市長会の親睦、あるいは調査、研究等を目的といたしまして千葉市に市長会事務局をもっております。なお、さらに各県におきましても東京に事務所を設けてある市が多々あるわけでございまして、中央との連絡、活動等におきましても東京に事務所を設けるということが非常に有利であるという結論に達しまして、昨年東京都市センターの中に東京事務

所を設けたわけでございます。

こういった点からいたしまして、人口割り、平均割り等を勘案されまして、館山市に四十八万五千円の負担金が示めされたわけでございます。

以上でございます。

〇市長（本間 謙君） 負担金やなんかにつきまして、大体いまから三年ぐらい前から、私はこういうものはなるべく減らせるものは減らして市民福祉に回すべきだというようなことではじまつておるわけでございます。

ちょっといまのこととははずれるかもしれませんが、申し上げる過程として申し上げたいと思います。

館山の土木出張所を取り巻く土木協議会、あるいは保健所の後援会とか、農業普及事務所の後援会とか、それから土木出張所では約三十万程度協議会の費用が割り当てられておったんですが、保健所のほうは百万円ですか、農業普及事務所は三十五万ぐらいですか、これは少しなんとかしなくちゃならないということで、その都度、つまりかかったものを私は割り勘でやってもらいたいということ、それはもうその負担には仲間にならないですが、その辺がどういう経過になりますか。出してもらいたいと聞きましたけれども、それは私はあまり効果がありませんから、効果のないところは市民の血税を出すということは控えなければならぬ。

これは議会を通せば通るでしょう。よそでやっていることであれば。それはあまり市長として無責任だと考えて私は出さないことにして、一部出さないでいる面がありますけれども。要するに

これは天皇制の時代の役人の、何ていうんですか、みつがせる、こういうことにつながると自分では解釈している。そういう流れがあるわけです。

だから、そういうふうにちょっと合法的ですよ。土木出張所で港湾、道路をよくするために、そこに協議会をつくって百七十万ですか全部で、館山市が三十万を出せば出したで私はよくならないと思います。

ですから、そういうことは改正すべきだということで、二年ばかり出しませんでした。しかし仲間はずれになつたわけじゃございせん。費用はその工事の実費だけは出す。こういうことでやっているんですが。

そういうわけでいろいろ議員の方からも御意見もございましたが、自動車に乗るから宴会なんかということとは控えたいんじゃないかという御意見もいろいろの方から聞いております。やっぱり御招待をしなくちゃならないということもあるかもしれないけれども、そういうことを考慮して、なるべくそういうことを省略して、たとえばやっても市民センターあたりで、ジュースぐらいでやるべきじゃないかという関係で。その他いろいろいままでは、そういうたような会を設けたりなんかすることもあつたりしたんですが、そういうことをやらないようにするために、その交際費を減らしたと、こういうわけでございます。

私は市長として皆さんには申しわけない点もございすけれども、時代に即応したふりにやることはいんじゃないかというふうに思つて、よそに先がけてやつたんですが、安房郡市の方々は全部負担していらつしやるんですよ。私はいまのような説明をや

っているけれども、共鳴なさらないんです。それは別としてそういうことを二年ばかりやっているんですが。

それから東京事務所の経費でございすが、私は市長会を千葉へつくること自体反対だったんですよ。いままでも市長会の事務局がなくてもやつておつたんですが、なぜそんなものをやるか、私は一人で反対した。経費をかけられちゃ困るじゃないかと。そういうものができたって、別に館山でこういうことをやって、こういう助成金をもらいたいから運動してくれといったって、人のことだからやりやしないと思うんですよ。そういうこともある訳で、また市長会というのは、おのの市の市長がやっている新しい施策を交換しあうということが最も意義があるんじゃないか、それにはそういうことじゃなく、やっぱり市でやっているようなことを部門的に設けているとやっておる訳でございす。その上東京へ事務所をつくるというから、私一人で猛反対したんです。野田の市長にはずいぶん呼びかけたんですけど、結局だれも共鳴しなくて、私一人ぼっちでしょうがなく、多数決できめられて、きめられたからといって出さないわけにはいかないし、私は条件をつけたんですよ。

東京事務所をつくるならつくっても仕方がないけれども、いままでは女の子だけしかいない、そんなことでは何にもならない。とにかく全てに明るく、各市長に通ずる人で、何もかも明るい人を置いて、館山市でこういうことが必要だから、ホイきたとその人が代行してやつてくれるような人を東京事務所に置くことを私は条件にというふうなことを言つたんですが、なんといっても二十六市でございますから、館山市が一人でがんばつたてうまくい

きませんで、そういう意味において賛成はしておらなかったんですが、やっぱり皆さんできめたものを抜けるわけにいきませんで増額された。

こういうわけでございまして、私はまああらゆる面でそういう負担金や何かについては検討して、なるべくそういうものは払わないように。こういうのがあるんですよ、治山治水協会、これはこの間役員会を開いたんですが、私はいまのように説明したんですよ。それでもって大きな予算を、治山治水協会の負担金が三十万、去年は十万しか払わないです。あとは払わないです。ことしも三十万しかたけれどもどうしようかと思つて、この間役員会ではこれはいいばはなせ、砂防林なんかやるからその工事費の何分というものが会費になるわけです。館山がこれをやつていけば去年は三十万を、おとすか、割当がきたわけにたいはなせ式で、こんなばかなことないじゃないかと。道路にしても港にしても、何にしても県の施策でやるんだ。それでやつた事業に応じて、いまの土木協議会のあれを、同じですよ、事業量に応じて計算して割当がくる。いたいいばはなせ、おかしいじゃないか。そんなことじゃこまるじゃないか。治山治水協会においてもそうです。

だから、ことしはいま申し上げたようなことをいって、半額にしない。来年は撤廃しない。あつたてどうして大したやうにしないじゃないか。予算獲得運動というけれども、そのときの割り勘でいいじゃないか。あらかじめ多額の、三十万なんていう大きな金を館山市が出すということはおれはどうも了解できないからといって帰つてきたわけです。

とにかく実情を考えて、なるべくそういうものは、出さなく済むものは出さないようにして、その分を市民の福祉に回すということが私の基本的な考え方であるわけでございます。

いまの交際費と、それから市長会の負担金についてはちょっと余分なことを申し上げましたが、渡辺さんのおっしゃることを私は現実に実行してまいっているわけでございます、そんなわけでございますから御了承願います。

〇庶務課長（小倉澄男君） 三四ページの二三節の行政事務委託料の件につきましてお答えいたします。

これは結論的に申し上げます、渡辺議員さんがおっしゃる地方財政法の二十七条の四項には違反してないと考えています。ということは町内会と申しますか、自治会といいますが、あくまでも自主的に結成されました、お互いの住民の福祉をはかろうという団体でございます、その方たちがいろいろな市の行政と相互の連絡をとり、市がその代表であります区長さんいろいろなことをお願いして、文書の配達とか、広報、そういうものを中心といたしまして、お願いすることに対して市が御苦労でございますのでなにがしかの、大変少額で恐縮ですが、それをお払いいたしました、相互契約を結びまして、それぞれ町内会の区長さんの手当てとか、そういうものに使つていくという金でございますので、結論的に申し上げますと、二十七条の四項には違反してないと思います。

〇議会事務局長補佐（脇田元始君） 議員の食糧費についてお答えいたします。

各市においても昼食は支出しております、当市の場合、財政

的に見合う二百円ないし二百五十円程度でございますので、この程度はやむを得ない支出であると解釈しております。

以上でございます。

○収納課長（横溝 功君）

四三ページを中心といたします納税組合の奨励金が地財法二十七条の四に違反ではないかという質問でございますけれども、これは国にも納税貯蓄組合法がございますが、館山市におきましては、この設立におきまして強要したのではなく、各地域社会が国民の義務をみずから率先して完遂しよう、こういうことからみずから会を結成したわけでございまして、市といたしまして結成をはばむ理由も私はないと思っております。

それで金額を調べますとおっしゃるとおりでございますけれども、一組合にすれば、現在二百二十七組合でございます。一組合にすれば五、六万という額でございます。ほんの事務費ということで支出しておるわけでございまして、そういう意味合いから見ましても地財法には違反しておらないということも考えておるわけでございます。

以上でございます。

○福祉事務所長（斉藤武男君）

五二ページの一九節負担金関係の中で交通遺児手当の関係につきましてお答え申し上げます。

本件につきましては三月の議会の中でもお話が出たわけでございますが、現在市内に交通遺児という方が大体二十六、七名いらっしゃるわけでございます。せっかくこういうような制度ができっておりますので、このPRと申しましょうか、回覧板、市の広報市内の日刊紙、そのほか民生委員とか、母子福祉推進員等を通じて、このPRにつとめておるわけでございます。

現在六名でございます。九月六名で二万九千円、三月六名三万円の支給をしておるわけでございます。

次の五六ページでございますが、一一節需用費の五十万四千四円の不用額でございます。まず四十六年度におきましては、公立保育園関係につきまして延べ三千九十九人の乳児を保育したわけでございますが、この予算の編成にあたりましては事前に県と協議をして措置費の関係がございますので、その段階で計上したわけでございますが、特に五十万の不用額が出ましたのは消耗品費の関係でございます。

これはこの中に教材費のものが入っておるわけでございます。たとえて申し上げますと、キンダーブックでありますとか、クレヨンでありますとか、折り紙とか、そういうものがあるわけでございます。これが三歳以上十六円のもの十五円で済んだということでございます。それからこれは年令別になっているわけでございますが、三歳未満のものは当初十八円程度のものが十七円で済んだ。それからさらに賄材料費の負担の関係でございますが、この中でやはり三歳児以上が四十四円が四十三円で賄えた。それから三歳未満のものが百三円のもの百円の基準であったというようなことで、この五十万にがしの不用額が出たわけでございます。

五八ページの生活保護費の関係でございます。まず生活保護費の関係で申し上げますと、三百九十人、一人当たりの平均単価でございますが七千九百七十九円でございます。

それから住宅扶助の関係でございますが百七十七人、同じく平均でございますが千五百三十円、教育関係八十九人千八百五十九

円、三百十人二万二千百十二円、二人三万五千二百、十四人一万三千四百円、施設の事務費が十二カ月で一万七千円、五人分でございます。

以上でございます。

○保健課長（網島憲治君） 五九ページの伝染病隔離病舎組合の五十七万の分担金についてでございますけれども、これは財政規模並びに人口規模によって現在八、二の割合で負担をしている、こういうふうになっております。現在はそうようになっております。最初負担割合をきめたのは財政規模並びに人口の規模によってということ聞いております。

○水道課長（大嶋重義君） 六五ページでございます。水道費の中の三芳水道企業団の負担金四千九百万円のこの関係でございますが、この三芳企業団からのこの年度の市町村の負担金の要求額は七千万でございました。これを分賦割合が、館山市で十分の七でございまして四千九百万円、それから富浦町が十分の二で千四百万円、それから三芳村が十分の一で七百万円、このような内訳でございます。

この分賦割合でございますけれども、これは三芳水道企業団の規約の第十二条の第二項におきまして、「この分賦割合は館山市十分の七、富浦町十分の二、三芳村十分の一とする。」ということ、その根拠に基づいてこのように出したわけでございます。

なお、この割合のとおり方でございますが、これは一日の平均給水量の割合、各三市町村の割合が一つと、それからこの管内の世帯数による割合、これもやはり関係市町村に分けてまして、さらにそれを総合した割合によりまして、大体このような案分率になっ

ている次第でございます。

○衛生課長補佐（佐山市太郎君） 六一ページでございます。百二十九万六千七百七十二円の不用額についてでございますが、これはと畜場の事業収入費が収入費の増と、それからと畜場関係の不用額の五十九万六千三百六十二円と、事業収入費の増が六十三万四千八百八十円ということで減になりました。百二十九万六千七百七十二円の不用額となりました。

賃金のことでございますが、これはごみ不法投棄のための監視員二人と、夏の河川の滅菌装置の管理人二人の雇い上げのものとございます。監視員一人が退職した分の残額五十一万五千円と河川浄化管理人の賃金が十二万四千円、合計六十三万九千円の減となつたわけでございます。

それから共同防除の油剤、乳剤、河川浄化用次亜塩素酸ソーダの薬品購入費が六十四万四千円ということで、あと庁用器具費等の残で合計百二十九万一千円となつたわけでございます。

○農業委員会事務局長（岩崎一郎君） 六六ページ農業委員会費につきましてお答え申し上げます。

御指摘のように確かに農業委員会補助金、これは百六十八万一千円であります。これは国の補助要綱によりまして、設備補助に對しまして配分を受けるものでございますけれども、このワクといたしましては、農業委員の設置に對する補助と職員の設置に對する補助、この二項目に分かれてございます。

その内容を見ますと、農業委員会の設置に對しましては、これは委員と職員合わせまして百四十三万の補助になると思います。内訳を申しますと、委員の設置に對しましては一人年額一万円程

度でございます。人件費につきましては、一名に限って設置の助成を認めるということでございます。私どもの場合不肖私の給与を前年度のそれをもって申請してございます。したがって、配賦になりますものは大体五五%になるかと思ひます。年額給与に對しまして、その程度の職員設置費というワケで配賦になるものでございます。

その他は年度によつて異なりますけれども、事業を実施した際の事業のワケによります補助でございます。これは事業の種類によつても異なりますけれども、おおむね二分の一負担ということでございます。この分が四十六年度二十五万ほどでございます。

このような観点からいたしますと百六十八万一千円になります。これを市の実際の経費を見ますと、一千百五十万八千二十円の支出がなされております。

先ほど申し上げましたように設置費補助はこれは人件費でございます。同様に経費も人件費でございます。物件費と見られるものは六十七万七千五百円程度。物件費で、これは事業費に充当する物件費でございます。ほとんど職員の設置をもって農業委員会の事業にあたっているというのが本市の実態でございます。

これらは市の実情、委員の手当、あるいは職員の人數、こういったものがそれぞれの市町村の行政需要と申しますが、こういうような規模に應じまして、独自の立場で設置するというような性格のものではないかというふうに考えられます。けれども、確かに需要は多いわけであります。定員の六名をもってしても、なおかつ分量が多いというような現実もございます。

そのようなことから、この超過負担にあたる分につきましては

市の実情もございましたけれども、これらの事情を訴へまして、県の農業会議、あるいは全国農業会議所、こういった機会の及びに一応運動方を展開しておるわけでございます。われわれ末端から起こします運動は微々たるものか存じませんが、これが県なり中央に集結しますと農林省を動かす力になるのではないかと、この機会あるごとにそのような運動を、現実には努力しております。

以上でございます。

○水産課長（谷貝茂生君） 七三ページの沿岸漁業構造改善対策事業補助金の増額分につきまして御説明を申し上げます。

この事業の当初予算におきましては二百六十六万六千円お願いしてあったわけでございますが、船形の並み形魚礁と富崎の投石事業を一応予定しておいたわけでございます。

ところが栽培漁業としてこの事業は非常に重要であるというところで、実は昭和四十五年に富浦から勝浦までの市町村と漁業組合が一体になりました。その上のほうに千葉県南部水産投石事業推進協議会という団体がございしますが、この団体を結成いたしました、この事業については国、県もひとつ助成しろという運動機関をつくりまして運動を始めたわけでございます。

これは六分の五だけ国、県の補助金がございます、わずかの金で大きなことがやれる。しかもその効果が大きいということで運動を始めたわけでございますが、年度に入ってしまったからこの運動が功を奏しまして、その後事業が増額されまして、洲崎のコンクリート投石と西川名の岩礁爆破事業が認められまして、当初予算よりさらに二百六十三万余の増額が認められましたので

追加を含めまして二百六万六千円を、一応追加分を含んで四百七十万円の助成ということで、昨年の九月の補正で御説明申し上げましたように同額を議決をいただいて支出したものでございます。御了承いただきたいと思います。

○商工観光課長（鈴木 力君） 七六ページの三目観光費の七節賃金について、海岸清掃人夫雇い上げ賃金の予算額に対する支出済み額の関係でございますが、四十六年度におきましては海岸清掃の人夫延べ千五十七名を雇い上げいたしました。海岸清掃を行なうたわけでございますが、たまたま四十六年度におきましては、県におきまして海岸清掃用のビーチレイキを二台購入いたしました。内房に一台、外房に一台、それぞれ海岸を持つ各市町村に貸し出しを行なうたわけでございます。

そのような関係もございまして、当市といたしましては極力ビーチレイキを借り上げいたしました。機械力によりまして海岸清掃を行ないたいということで、年度途中におきましてビーチレイキの借り上げ料の補正を追加でお願いいたしました。行なうたものでございます。

そういうような結果によりまして、海岸清掃の人夫費が当初予算に比較しまして安くあがった、こういうような経過でございます。

以上でございます。

○土木課長（飯田治男君） 八〇、八一ページの負担金についてでございますが、これは県議会の承認を得て、県が毎年きめた率によつて各市町村に課されてくる負担金でございます。私どものほうも毎年県の土木常任委員会の視察等もございしますので、

そういうたおりに関係市町村で負担の軽減、あるいは撤廃というような、これは毎回やってきておりますので、今後もそういった方向で進めてまいりたいと思います。

それから八二ページの都市下水路費でございますが、これは当初那古下水路ほか三カ所の工事を計画いたしました。ただ百万の補正につきましては、そのときに御説明しましたとおりで、今回十六万一千円不用額が出ましたのは、これは請負残の工事費でございます。それで工事につきましては当初計画いたしましたとおり全部完全にでき上っております。

ただこの中で三カ所は単年度で、終了した水路で、一カ所はそのとき先に残そうと思いましたが、すれども、やはり沿道に障害物等もございましたので、一応本年度はこの四カ所とどめたわけでございます。

○教育委員会庶務課長（汐崎政光君） 八九ページの負担金補助及び交付金の中の安房農高新築期成会負担金について御説明申し上げます。

四十四年の七月に安房農高のPTA並びに同窓会、それから安房郡市の市町村長、その他有志の方々が集まりまして、安房農高の新築期成会を結成しておりますが、私どもといたしましては創立五十周年にあたります四十七年までに安房農高の校舎の新築計画が達成されますように必要な援助をしようといったことが目的でございます。

そして、その目的にしたがいまして建設予定の総工事費四億三千万円のうち三分の一にあたります一億四千三百万円、これだけ和田農協から借り入れまして、一時立てかえ、その元金について

は県からのちほど償還してもらうこととし、その利子のみをこの期成会で負担していこう、こういったような協議がなされたわけでございます。

ここに計上いたしました負担金は、その利子の館山市負担分の一部でございます。そうしたわけで県から負担割り当てがございまして、県への負担金ではございません。そのように解しまして地財法違反とは考えません。

以上。

〇一〇番（渡辺軍治郎君） 食糧費の問題ですが、特に議会食糧費については、金額が二百円から二百五十円程度のもので、その程度のもはやむを得ないのではないかと。いろいろな御答弁でしたが、たとえ二百円にしろ、二百五十円にしろ、歳費をもらってそして私たちは活動しているんで、自分の食べたものは当然自分が払うべきだ。ということは一一般職員も手弁当でつとめているわけで、特に議員だけが弁当をもたないでいいという、そういうことはないと思うんです。これは一つの議員としての特典というような形で出ているのではないか。そういうふうに私は考えております。こういう無駄づかいと申しますか、そういう点では議会が率先して手本を示めすべきだというふうに考えておりますので、その点は検討していただきたいと思っております。

さらに、交際費の問題ですが、きょうは議長交際費には触れませんでしたけれども、議長交際費八万二千円くらいですか減額になっていきますが、聞くところによると、議長交際費の大部分が他市から視察にくる議員に対するサービス、そういうものに使われているように聞いております。こういう他市から来た議員にサー

ビスすることは必要ないんじゃないか。館山市の議員がよに行った場合に同じようにそういうサービスを各地方の議会事務局から受けるので、これは交際上やむを得ないんだというような話も聞きますけれども、これは一つの悪弊であって、こういう悪弊はなくしていくことが肝心だろうと思っておりますので、この点も検討していただきたいと思っております。

それから市長交際費については、市長さんから先ほどいろいろ説明がありまして、経費を節約しているという面では高く評価しております。引き続き無駄使いをやめて市民のために使うような、そういう方向にもっていったきたいということを重ねてお願いいたします。

それから市長会の東京事務所件ですが、こういうことは全く必要ないように感じられますが、結局市長会全体としてのそういう中で負担割合がやられてきたということではやむを得ない事情もあると思いますが、できるだけこういう必要のないような、そういうところに金を使わないように一そう努力をお願いしたいと思います。

それから町内会長に対する行政委託料ですが、さらに納税組合の奨励金、この二つは地方財政法二十七条の四に違反してないと、こういうふうに言われましたけれども、二十七条の四では「市町村は、法令の規定に基づき当該市町村の負担に属するものとされている経費で政令で定めるものについて、住民に対し、直接であると間接であるとを問わず、その負担を転嫁してはならない。」こういうふうに規定されております。

町内会は自主的な組織であって、町内会は部落の親睦とか、そ

四外 加

ういうことを中心に、あるいは部落のいろいろな要求を取り上げたりして活動している自主的な団体であつて、これはその町内会の会費の中から町内会長に対する手当とか、そういうものがきめられていくのが、これは民主的な組織の建てまえだと思ふんです。

しかし、それなのに市から総額にしまして三百七十三万一千二百五十円、先ほどの説明では一つの組合に六万ないし七万というふうに話されましたけれども、こういうふうに市から行政の委託料として出されるということは、これは財政的にやはり町内会をひもつき組織にしていくということになつて、こういうことから市の言ってくることはどうしても引き受けてやるといふような因果関係がここに生まれるんです。そういうことで財政的に大々的にひもがつくんじゃなしに、いろいろな行政面の手足に使われるような戦前の町内会の組織のような、そういうふうな方向にいく危険が相当感じられます。そういうことからこの地方財政法二十七条の四が自主的、民主的なそういうものを手足に使うようなことをさせないような、そういう規定であらうと、こういうふうに考えております。

町内会の総会での決算を聞きまして、その時には町内会長に対して市から行政委託料が出ているといふような決算報告はなされておりません。これは町内会長個人に出されておつて、町内会といふようなそういう組織には入ってないと思ふんですが、実際には町内会長は部落から選ばれてなつてゐるわけですから、町内会長が個人で市の行政委託料を受け取つたとしても、それは町内会の隣り組、そういうような組織を通じて活動がやられていふといふようなことから、これは個人と対等の契約によつてと言われま

したけれども、実際には町内会を足に使うといふことで、たとへばこれは広報の配布にしてもそうです。一軒一軒配るのが建てまえですが、それを町内会を使ってやつてゐる。こういうことはこれは二十七条の四に違反する行為でありまして、こういう点はやめるべきだといふふうに考えますので、先ほどの御答弁では納得できないものであります。

また納税組合の奨励金にしまして、これは国民保険にしても同じですが、市の行政事務であることは間違いないわけです。

徴税事務といふものは、それをたとへ個人の組合長にやらせるとしても、これは組合長は自主的に向こうが引き受けてくれたんだといふような先ほど答弁がありましたけれども、市がそういうような積極的な方向で活動しなければ納税組合といふものはやはりできないと思ふんです。

市の行政事務を納税組合をつくらせて委託するといふようなことは、これは二十七条の四に当然違反してゐるわけです。ここには「直接である」と間接であるを問はず、その負担を転嫁してはならない。」と、こういうふうに規定しております。これに抵触するといふふうに考えますので、特にこの徴税費が千二百二十二万六千四百十円、こういう多額の徴税費をつかつておるわけですから、この徴税費は当然市のほうで活用するとすれば、市民のために相当役立つように活用できると思ふんです。これも二十七条の四に違反すると同時に市の予算を相当無駄にしているのではないかと。納税といふものは自主申告にして納税をやるのが原則でありまして、そういうことをPRといひますか、奨励して自分で納める税金はきちつと納めるということになれば、あえてこういう納税

組合をつくって千二百万円をこす徴税費をつかわなくても済むのではないか。これは二十七条の四項に違反すると同時に、こういう市の財政的な面からも廃止すべきだ。こういうふうに考えております。

先ほど民生費の生活保護者の実人員の増減についてお尋ねしたんですが、この増減については実人員だけで、前年度と比較してどういふふうに増減があったのかということでは回答をいただいております。というのは、これはいろいろ消耗品とか、賄材料とか、そういうような点でのことでございますが、増減についてということでは、これは一体生活保護の実情がどういふふうになっているかを知りたかったので、そういう前年度の比較がわからないので、その点をお聞きしたかったわけです。

それから三芳伝染病舎組合の負担金についても、ちょっとどういふふうな率でやられているか聞き漏らしたんですが、この点がわかりません。

それから学校給食組合の分担金につきまして、これはおそらく人頭割りというようなことになると思いますが、その点もはっきりしなかったもので、ただ三芳水道の負担金四千九百万に対しては十分の七、十分の二、十分の一ということでは、平均給水量の割合とか、世帯数による割合とか、そういうことが勘案されていることが話されましたけれども、これは三芳水道ができてから今日までこの割合はかわっていないわけです。

私は水道議員で、たびたびいつの会議でも主張しているわけですが、給水を始めた当時と現在では加入戸数が大きく変化して、この割合がかわってもいいんじゃないかというふうに考えており

ます。そこで現在の加入戸数からみた割合を検討してみますと、館山が十分の五、富浦が十分の四、三芳が十分の一というふうに、加入戸数からみればかなり大きくかわっているわけです。

この負担金はあくまでも、やはり受益者負担という立場に立って配分率をきめるのが正しい配分のしかたではないかと思えます。この四千九百万をいま言った五、四、一というような割合で配分しますと、館山は一千四百万多く負担しているというよりな形になります。こういう負担の割合が非常にアンバランスになっておりますので、その点は改善していかなければならないんじゃないかと思えます。

それから三芳伝染病院の五十七万の負担率はどういふ根拠からなっているのか。これをちょっと聞き漏らしましたから御説明願いたい。

それから給食組合も同じでございます。

農業委員会費の超過負担ですが、約一千万近い超過負担があるわけですが、先ほどの農委事務局長の説明では、農業委員会としてはこの超過負担をなくすような運動を独自でやっているというふうに回答されましたけれども、こういう超過負担を市が出させられているわけですから、市の側が農業委員会の超過負担を解消するためにもどういふふうに努力をされているのか、その点をお聞きしたいと思います。

観光費の海岸清掃の工夫の問題ですが、ビーチレイキですか、これを入れたために減額になったというふうな話ですが、このビーチレイキの予算を見ても、これは非常に少ないと思うんです。観光的な立場に立って、夏だけでなしに四季を通じて海岸をきれ

いにするということは非常に重要ではないか。これはよそから来るお客も夏の避暑客だけではありません。いろんな旅行客がきて海岸の旅館に泊まったり、海岸を散歩するというようなことで、常時海岸をきれいにすることが観光としては一番大切なことじゃないかと思ひますので、人力によることもけっこうですが先ほどのお話のように機械を入れて、もっと機械を多く使つて海岸を常にきれいにしよう、そういう努力はされないものかどうか。この点についてもう一点。

それから負担金の問題ですが、県の事業の負担金がいづになつても、私は主張しているんですが、この負担金は、やはり地方財政法に違反している。九条から言えば、これは負担しなくてもいいというような、そういう条項にもなつて、例外規定もありますけれども、この問題については県の事業をやればやるほど館山市の負担が多くなる。特に道路舗装の負担金は全く館山市だけが利益を受けるのではなくて、館山市以外から入ってくる車やそういうものが利益を受けているわけで、財政法の建てまえからしても県内の市町村で利益を受けないところは一つもないわけです。これは当然やめさせなければならぬ問題と思ひます。

港湾についても当然県の事業としてやるわけです。これは地元へ負担をさせないで県の単独事業としてどんどんやつてもうような形で進めてもらいたい、そういうような点について。運動しているといつても、いつになつてもこれは減つていないわけですから、こういう点についてもっと運動を強力に進める必要があるのではないか。こういうふうに考えます。

下水路の問題ですが、四カ所で一部障害物があつてやらなかつ

たというようなお話ですが、中央公園ができて、あそこには排水路があるんですが、あの歩道橋の足が水路のさまたげになっているといふことで、これは集中豪雨のあつた場合には排水路ははんらんするおそれが十分あるわけです。橋脚が水路を妨げるためにあそこにごみがたまつて、これがわきのほうに水路は開かれていますけれども、あの橋却を取らなければ先にいふ大きな事故が起こることが予想されますので、この点はひとつ十分やつてもらいたいと思ひます。これをどういうふうに考えているか。

それから駅前の排水路の日東交通から南のほうにいくあそこの排水路は、線路わきを通つて濠川のほうに落ちるような、そういうことになつていふと思ひますが、いつでも雨が降ればあそこらははんらんして、水が流れないといふようなことで、市民が迷惑しております。

こういうような仕事があるにもかかわらず百万円の減額とか、十六万一千円の不用額を出しているといふことは、予算をもつとつかつてそういう方面にやるべきではないかといふように考えますので、この点をどういうふうに考えておられるか。

それから安房農高の新築に伴う、これは期成会がやっているとありますが、利子だけだから地方財政法の二十七条の三には該当しないといふような御答弁ですけれども、たとえこれは利子の負担にしても高校の建設に伴う援助でありまして、当然これは二十七条の三に規定する「都道府県は、当該都道府県立の高等学校の施設の建設事業費について、住民に対し、直接であると間接であると問はず、その負担を転嫁してはならない。」、こういうふうに規定されているわけですが、先ほどの御答弁では利子だか

ら事業費にはならない、関係がないんだというようにございますけれども、一応利子にしても当然金を借りて、利子を払って建築費に使うということならば、当然これは建築費に含まれるものであって、二十七条の三に違反しないということはき弁であると思います。こういうことについての見解は、違反しないというようなことについては納得できない。

以上。

○財政課長（長谷川広治君） 農業委員会の超過負担関係について御説明を申し上げます。

御案内のとおり補助額はそれぞれ国の補助の単価、そういうものから成り立ちまして、当市のものは幾らというように基準で補助が交付されるわけでございますが、私どものほうの会議でも毎年のように基準の単価をあげよということで四十五年、四十六年度も御案内のように普通の予算の上げ幅以上に額はわずかでも率としては上がっているようなわけでございますが、まだ絶対的な金額の面では不足しておりますので、なお強力に上げ幅を年々大きくしていくと、そういうことで運動はいたしてまいりたいというふうに考えております。

○庶務課長（小倉澄男君） 町内委託料の点に関してお答えいたします。

地財法の二十七条の四項に違反しているということでございますが、私たち地財法を考えますときに、地財法にそれぞれの市町村が負担すべき経費が各条に載っております。政令にも地財法の第十六条の關係で、市町村の職員の給与に関する、市町村立の小学校および中学校の管理運営に関する経費というようなのは、

負担してはいけないというように載っておりますので、われわれ地財法には該当してない、そういうことから、さらに町内会が先ほど申し上げましたように自主的に組織いたしました、それぞれの地域住民の福祉を増進しようという団体でございます、市もいろいろな面で市民の福祉を向上するために努力しているわけでございますが、たまたまそういうような団体でございますので、相互に話し合ひましてやっておるわけであります。地方自治法には能率的な行政を運営しなければならぬというふうに書いてございます。

いろいろな方法がございますが、この方法によりましてやることが最も能率、かつ最小にして最大の効果があらわれる方向ではないかということでやっております。

なお、これは全国各市町村ほとんどがこういうような組織をもって、自治省の調査によりますと九九%ぐらいの市町村がこういう組織をもって、市町村の行政事務をお願いすることがあるわけでございます。

なお、いろいろこれにつきましては掲示板とか、そういうようなものがありまして、それによってやればいいということでございますが、やはりそれを住民一人一人がみていただくかなければならないということで、市町村の行政事務を徹底させる意味で、それにはやはり住民の福祉を最も願っておる町内会の人たちの御協力を求めることが最善の方法であると確信をしているわけでございます。

○収納課長（横溝 功君） 地財法に違反しないことはいま庶務課長からお話がありましたとおり法令に違反してないと思います。

納税組合を廃止すべきだと渡辺議員はお考えでありますけれども、自主的な団体でございますし、向こうがやめるといふならばこれはやむを得ず仕方がないことでございますけれども、そうでない限り、市としては廃止する考えはありません。

○福祉事務所長（斎藤武男君） お答え申し上げます。四十五年度の他市の関係でございますが、生活扶助の関係につきましては四百四十四件、住宅関係百六十六件、教育関係で百一件、医療関係で九十一件、出産関係で二件、生業関係で九件、葬祭関係で十三件でございます。

なお、全国平均の保護率を見ますと、一二・七四パーミリーであるわけでございますが、千葉県の平均は五・七八パーミリーでございます。館山の占める位置と申しますのは九・八パーミリーでございます。

○保健課長（綱島憲治君） 伝染病隔離病舎組合の負担割合は規約によりまして館山市八、三芳村二、このようになっております。

それから、その内容といましては財政規模並びに人口規模によって、そのようにきまつたことを示しております。

○商工観光課長（鈴木 力君） 海岸清掃用のビーチレイキ使用につきましては、御指摘のように四季を通して清掃につとめたいというところで、幸いにいたしました、このビーチレイキはいままで使用町村によりまして、それぞれ持ち回りによって保管、管理しておったわけですが、この四月から館山市におきまして全面的に管理をしてくれないかという県、あるいは関係市町村からのお話がありました。それを引き受けまして、館山市に機械があるという、こういう状態でございますので、極力使用いたしまして、

海岸の清掃に使いたいと思うわけでございます。

○土木課長（飯田治男君） 南町の中央水路の横断橋の橋脚についてでございますが、先だつての雨のときも土木事務所に連絡いたしました、土木事務所の担当者にも現地を見てもらい、至急善処方を要望してございます。

それから日東交通から渚の踏切という水路でございますが、いともごみがたまって流れないような状態でたいへん皆さんに御迷惑をかけておりますが、八月衛生課で全部清掃いたしました次第でございますので、現在はいく水が流れている。

以上でございます。

○教育委員会庶務課長（汐崎政光君） 館山市富浦町及び三芳村学校給食組合の負担金の割合でございますが、これは一部事務組合の規約に基づきまして、その年の五月一日現在の児童生徒数の割合で定めることになっております。

四十六年度におきましては館山市が八二・五四％、富浦町が一〇・六〇％、三芳村が六・八六％、以上でございます。

それから安房農高の新築期成会の負担金でございますが、これは新築期成会なるものが安房農高のPTAの方々、それから同窓会、それから安房郡市の市町村長、こういった方々が寄り集まりまして、県の農高の建築計画を取り上げて、建築を早めるために自主的に組織され、自主的に計画されました事業でございますので地財法違反とは解釈できないんじゃないか。このように考えます。

一〇番（渡辺軍治郎君） 町内会長に対する行政事務委託料の問題ですが、説明では最大の効果を上げているというよりな、そう

いうお答えですが、広報にしろ、いろいろな市の伝達とか、これは行政事務になるわけですが、当然こういうものは各戸に配布するのが当然でありまして、金がかかってもそういうことをやること、やはり民主主義を尊重するという立場に立つなら、町内会を利用して、それを足に使うというようないき方は間違いだろうと思うんです。地財法に違反しないといいますが、これは当然市から金を出しているわけですから、ひもが付くわけですよ。

対等の立場といっても、市から金をもらってやれば、やはりもった建てまえてどうしてもやらざるを得ないようになる。結局上意下達の機関にこれは変換されていくということは明らかです。それを財政法に違反しないから、何々だからというような形で、これをやっていくということは間違いだろうと思います。こういう点についてはもっと検討されて、中には進んでやる人もいるかもしれませんが、迷惑をこうむっている人たちも相当あると思うんです。しかし金をやれば結局迷惑でもそれを引き受けざるを得ないという方向に追い込まれて、たとえば福祉や、道路舗装の寄付、そういうようなものにしても町内会長が頼まれれば、市と関係あることについてはどうしても引き受けなければいけないように追い込まれるわけです。だから部落の人を集めて会議を開いたり、それを個人個人に割り当てたりというところまで実際にはいっているわけです。

そうなりますと、どうしてもこれは行政機関の手足に金をやって使っているというふうなことになるから、決してこれは自主的な、そういう方向にはいってないと思うんです。当然町内会が、これは民主的、自主的な組織としてでき上がったもので、市とは

全然関係がない組織になるわけですから、そこに金を出して、金をやることはこれは地方財政法に違反しないということは言えないわけです。そういう点ではもっとも真剣に考えてもらいたい。

納税組合にしても、納税組合が自然に、市の役が無理につくらなくても自主的にできた組織だから、そっちがやめるとか、やめないとかきめなければというようなことを言っておりますが、当然これだって市がこういう組織をつくらなかったら税金が集まらないというふうなそういう考え方があるから、納税組合を奨励して、やはりこれも金を出せば一生懸命になつて、納税組合長がかけ回って集めるというふうなことに当然なるわけですよ。

行政事務を金を使って、そして使う。奨励金という名目であっても、これは市が金を出して使うというふうな、そういうことになつていくわけです。だからこれは、やはり税金を集めるために利用している、便利につかっているという以外にないと思うんです。

これが地方財政法の二十七条の四に違反しないということはないわけです。間接的であろうと、直接的であろうと、そういう行政事務を住民に転嫁してはならないという、こういう規定がはっきりしているわけです。

当然税金は個人個人が自主的に納めるのが建てまえて、それを奨励するような形でいくのが行政指導だと思ふんです。それを納税組合を使って転嫁するというふうなことが財政法に違反しないということはありません。はっきり財政法に違反してます。

それから三芳伝染病組合の割合が財政規模によって八と二とい

うふうに案分されているようですが、利用者は一体どういうふうになつてゐるのか。要するに館山市と三芳村の關係でどういうふう利用されているのか。ちょっとお聞きしたいと思ひます。

それから三芳水道企業団の分担金について四千九百万円に対して、現在の加入戸数から見れば当初と比べて非常に変わつてゐる。そういう立場から、当然これは変更されなければならぬものだと思いますが、その点についてどういふふうに考えておられるか。

○市長（本間 譲君） 三芳水道の分担金の割合については、渡辺さんは以前にもお話されましたが、加入戸数だけではないかと思ひます。やはり水の使用する量等もいろいろ考慮しなくちゃならないと思ひます。それは計算方法によればある程度のものが出ると思ひますけれども、いろいろこの間も話し合つてみたけれども、いろんな点があつて容易にこれがそういう氣運にならないわけですが、いづれにしても、そういうことは向こうの理事者と話して、できればまた算出し直すということも考えられると思ひます。

○保健課長（網島憲治君） 利用の度合いは、これは館山市が圧倒的に多いわけでございます。ちよつと手もとに資料は持つておりませんけれども、三芳の場合ほとんどない。たつた一回十四名ありましたけれども、あとの場合ほとんどないということでございます。

以上でございます。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 市長さんの話の分担割合、いろいろとわかるのでむずかしいという話ですが、実情にあつた合理的な方法できめていくというのが建てまえであると思ひます。

三芳水道を利用しているのは、今度八幡、湊が入りましたけれども、正木、那古、船形、それを除けば、つまり富浦、三芳のほうで利用しているわけで、この館山の一部の地域で利用している水道に対して、房州水道に加入している人、ほかの館山市の簡易水道に加入している人、そういうような人たちが全部が三芳水道の分担金を払わなければならないというような、そういうことになつてゐるわけで、案分が正しく加入戸数によつて合理的にやられていれば、そういうことに対する不満というものが起こらないと思ひますが、一部のほうから水道の負担を市民全体が負担するということになると相当問題があらうと思ひますので、この分担金の比率をかえていくということは今後問題にされていかなければならないと思ひます。

市長さんは三芳水道の理事長といひますが、企業長、そういう立場にあるんで、なるべく困難ではあらうかと思ひますが、しかしこの問題はそのまま放置するわけにはいかないので、水道議会そういうようなところで改善するように努力していただきたいということを要望しておきます。

以上でございます。

○一三番（五十嵐 昇君） 館山市の一般会計歳入歳出決算書、審査意見書の中で一般会計歳出といはしまして、昭和四十六年度一般会計歳出決算は予算総額二十二億六千四百九十九万九千二百円に対し、決算額は二十二億三千五百九十二万八千九百三十三円、不用額は二千五百四十八万二千九百九十七円、執行率は九八・三%とこりうたわれておりますが、いつのときにも思ひますけれども、この不用額が大き過ぎやしないか、いづれにいたしましても、あ

まりこの予算額と決算額の間におきまして不用額の多いということとは喜ばしい現象ではなからうかと、こう存するのでございます。

もちろん予算決算でございますので、年度初めの大体の概算であります。見積もりであります。したがしまして概数に食い違いができていくということは、これはやむを得ない現象であらうかと存じますけれども、もしも予算決算におきまして過大、過少のあった場合には当然その年度の途中において、これは追加補正することが適當であつて、決算において大きな開きが出るということとは決して好ましい現象ではなからうかと存するのでございます。

ことに収入の少ない、財源の少ない当市におきましては、予算編成時におきまして相當の大なたが加えられ、適當な予算編成のもとに予算決算が行なわれる。したがしまして、このこういった大きな多額の不用額が生ずる理由につきましては、何か了解に苦しむ点もなきにしもあらずでございます。

したがしまして、そういう見地から四十六年度の歳出につきまして不用額の多い各款を見渡しますと、この意見書の初めのほうに総務費が不用額六百十三万八千七百九十六円、これが一位でございまして、二位といたしましては教育費の五百十六万八千三十五円、それから三番目といたしまして民生費の四百五十六万三千六百円、その次に四位といたしまして衛生費の三百七十万三千四百九十六円、五位が消防費、六位が土木費、七位が農林水産業費、その次が商工費、その他となっておりますのでございます。

つきまして、そういった不用額があまり大きく出るということにつきまして、教育費等につきましても相當の不用額が出ておるのでございます。教育費は何としても市長さんの三本柱の一つで

ありまして、最も重点施策の一つであらうかと思ひます。

この不用額の主なものは総務費の百四十五万七千八百六十一円、小学校費の百二万三千七十四円、中学校費の百五十八万二百二十三元、こういう不用額がここに出てゐるわけでございます。たとえば小学校費の需用費の不用額六十三万三千五百五十六円、それから中学校費の需用費の不用額三十万七千九百九十一円、幼稚園費の不用額が三十万八千二百八十一円のうち需用費が二十一万三千三百七十八円、社会教育費の不用額六十七万一千五百八十円等が主なのでございますけれども、ことに小、中学校の需用費におきまして相當多額の不用額が生じておるのでございますけれども、この不用額の生じた理由につきまして御説明をいただきたいと存じます。

その次に第二点といたしまして保健衛生費の次の環境衛生施設費不用額百三十六万五千六百六十四円について。ことに館山市の環境衛生という面から多々改善の必要性のある個所が非常に多いといふことを考えるものでありまして、多額のこういった不用額の出た理由につきまして御説明をいただきたいと思うのでございます。

それから歳入におきまして、市税の滞納額が一千四百九十九万八千八百五円と相當多額の滞納額が上げられておるのでございますけれども、この滞納額につきまして前年度に属するものが幾ら、本年度に属するものが幾らかの御説明をいただきたいと存じます。

なお、欠損額が二十万八千八百六十円と大幅に減少してゐるのでございますけれども、これは当局の徴収に対する熱意のいたすところで、その御努力に対しては敬意を払うものでございます。

れども、その内容につきまして御説明願いたい。

以上、三点につきまして御説明いただきます。

○議長（吉田勇治郎君） 午前の会議はこれにて休憩とし、午後は一時再開とします。

午前十一時五十分 休 憩
午後 一時 五分 再 開

○議長（吉田勇治郎君） 午後の出席議員数二十四名。休憩前に引き続き会議を開きます。

○市長（本間 譲君） 五十嵐議員さんの御質問に対しましてあらましのことをちょっと申し上げたいと存じます。

実は昨年予算編成時におきましては、政府の方では職員の給与を八%アップするというような、その当時は意向であつたわけでございますから、その線で予算編成を行なつたわけでございますが、そうして見ますと人事院勧告が一二・七%ですか、ということになってきて、それじゃ困つたなあ、どうしようかということであつたんですが、いづれにしてもこれは議会の承認を経てあるし、この事業はやらなくちゃいけないし、しかし相当の幅もできたわけで、だいぶ苦慮したわけでございます。

とにかく計画をされた仕事はやって、そうしてなるべく経費を全面的に節減していただきたい。こういうことを私から各課長に要望した面もございまして、こういう不用額等がある程度出たのが実情でございますが、また詳しいことにつきましては関係課長のほうから申し上げたいと思います。

そういうことがございまして、その結果不用額等が出たと存ずる面もございしますので、一応その点を申し上げておきたいと思

ます。

○財政課長（長谷川広治君） 不用額の総括的なことについて御説明申し上げます。

歳出の執行率四十六年度は九八・九%でございます。四十五年度は九八・七%でございますので、執行率はわずかでございすが年々上昇しているという原則でございます。

不用額の内容でございますが、市長がいま御説明申し上げましたとおり事業費的なものは、これは最高に執行していくといううなことで考えておりますので、工事請負費につきましては御案内のとおり本年度は百四十九万程度の不用額でございます。四十五年度が百七十八万ぐらい、そういうふうに考えて執行をいたしておるわけでございます。

あとの事業費以外の諸経費と申しますか、そういうものにつきましては極力節約をし、と申しますか、創意工夫をいたしまして、予算以内で十分の効果のあがるようにということで考えて執行したわけでございます。

なお、他市との関係でございますが、四十六年度の執行率はまだわかりませんが、四十五年度で県下の市を見ても大体九八・九%というのはいまのところは県下の最高の執行率といううにみております。

なお、大体国の考え方といたしましては、明文的なものはいませんが、大体三%から五%の程度のものが繰り越されるといふような予想数字をもっております。四十五年度の繰り越しの額を大体類似した県下の市で考えてみますと、木更津では九千五百九十六万、野田で七千九百五十万、佐原で五千十七万、成田で一

億五千八百五十万、佐倉が一億一千六百七十万、習志野が二億四千六百六十万、鴨川が七千二百七十四万、勝浦が二千三百一万、大体こういう数字でございまして、県下の市の繰り越し額の平均値が一億四千九百三十三万一千円と、こういう数字でございまして、私どもなるべく議決の趣旨にそって予算は執行する。ただし、消費的なもので極力節約、あるいは創意工夫できるものは、その範囲内にとどめる。こういうことで四十六年度は行なつたわけでございます。

○収納課長(横溝 功君) 千四百十九万八千八百五円の繰り越し分のその内訳ということでございますけれども、四十六年度の繰り越し分が八百九十万五千六百二十六円となっております。四十五年度以前の分が五百二十九万三千百七十九円、合計いたしました千四百十九万八千八百五円の繰り越しを出してしまつたわけでございます。

それから不納欠損額二十六万九千四百八十円のことでございますけれども、税目ごとの欠損は御覧のとおりでございます。

この理由でございすけれども、やはり生活困窮とか、居所がどうしてもわからない、それから亡くなってしまつて承継者がない、事業が倒産しちまつてどうしようもないというようなことで結局百四十八人、ついに欠損処分したわけでございます。

以上でございます。

○衛生課長補佐(佐山市太郎君) 環境衛生施設費の不用額百三十六万五千六百六十四円のことでございますが、これは一般会計より国の特別会計への繰り出し金百二十九万六千七百七十二円が主な原因でございます。

これは先ほど申し上げましたとおりと畜場の特別会計当初予算の事業収入の五百七十四万に対して六百三十七万四千七百八十円の収入で六十三万四千七百八十円の収入増でございます。

それから特別会計と畜場会計におきまして、不用額が五十九万六千三百六十二円あつたのが主な原因でございます。

以上でございます。

○教育委員会庶務課長(汐崎政光君) 小、中学校におきます需用費の不用額について申し上げます。

九一ページの一一節需用費におきまして六十三万三千百五十六円不用額を計上しておりますが、これは予算総額に対しまして五・四%に相当するものでございます。

細説的にちょっと申し上げますと、消耗品費におきまして二十六万二千六百六十四円、それから燃料費におきまして五万五千三百二十六円、食糧費におきまして五万三千三百円、印刷製本費に一万四千六十七円の不足、光熱水費十四万九千九百九十三円、修繕料におきまして十三万二千七百七十円の残、こういったことでございますが、消耗品費に二十六万二千円、この内容が各学校に配当いたしましたものにつきましては、残額六万九百四十六円でございますが、小学校の教科書改訂に伴ひまして先生方の使います指導用の教科書を、今年度購入いたしました。その残が三万四千円でございます。

それから教育委員会におります大工が、各学校の修繕をしますにあたりまして、その修繕用の材料費をこの修繕費の中で予定しておつたわけでございますが、手が回りませんでした関係から、残しました関係が十六万ほどございます。

次に多い光熱水費におきまして十四万九千円の不用額が生じております。これは主として水道料の残でございます。四十六年度は船形小学校と北条小学校、神戸小学校、三つのプールを小学校において作ったわけでございますが、そのプールの使用開始時期が船形にありましては七月末、北条、神戸にありましては八月末になりました。こういった関係から水道使用の量が少なくなった、こういったことと、あとは節減によるものでございます。

それから九四ページの中学校費の一目学校管理費におきます需用費でございますが、これにおきましては三・五％に相当する三十万七千九十一円の不用額を生じておりますが、細説的に申し上げますと、消耗品費におきまして十七万二千百八十五円、燃料費におきまして一万一千五百八十六円、食糧費におきまして二万五千三百八十円、印刷製本費におきまして四万九千五百八十七円、光熱水費におきまして不足三万七千二百四十一円、修繕費におきまして七万八千七百九十七円、こういったふうな次第でございます。

ここにおきましても一番大きい消耗品費、この中の各学校に配当しました一般消耗品費におきましては九万九千円の残で、残りは首繕用の消耗品費として七万二千円の残が生じましたような理由でございます。

他はいずれも節減によるものでございます。

それから九五ページにおきまして一一節の需用費でございますが、主として生じました八十万円の不用額、これは生徒学習用無償交付の器具の材料費購入の残と、値引きによります残金と、四十六年度中学校の教育課程が移行しました段階におきまして購入

します器具、材料を精選いたしました関係で生じました不用額、それが大半でございます。

以上でございます。

〇一三番（五十嵐昇君） 私の質問の不用額につきまして、市長並びに関係課長の御説明で大体を了承したわけでございます。

ことに四十六年度の予算におきましては人件費の上昇等によりまして幾分の費用の節減をはからなければ健全財政が維持できなかったということ、したがって市長さんの念願としております健全財政の維持という点で賛意を表するものでございます。

その御説明の中で、ことに事業費は大体において、遂行したというところでございまして、当然積極的な事業といたしましての施策は十二分にしていただかなければならないし、すべきもの、ところが財政課長さんの説明にもありましたように、この事業費、以外の経費はなるべく節減して、事業費はなるべく最高にもっていったという点につきまして賛意を表する次第でございます。

なお、この各県下の市町村におきましての大体の繰り越された額等も御明示いただいたわけでございまして、本市は決して繰り越し不用額がほかの市に比べまして過大なものではないということも了承されたわけでございます。

しかしながら議決された予算につきましては、なるべくこれを、議決の意を尊重されまして十分に執行されることが望ましいと、こう考えるわけでございます。

このほか環境衛生費におけるところの不用額等の内容におきましても同様のものによるところの不用額。

あるいはそれから小、中学校等におけるところの不用額の内容

もよく了解するものでございます。

なお、小、中学校におけるところの営繕的な事業が、大工さんの手が回らなかったという点において不用になったというような説明もございましたけれども、小、中学校の市の校舎の修理、営繕等につきましては、まだまだわれわれ見ますところによりますと非常に老朽校舎をかかえましての、そういうことの必要性というものが十分りがわけるわけでございまして、十二分に修繕、営繕等につきましては計画的に執行されるという点が望ましいと考えるのでございます。

不用額等の出た点につきまして、水道料金の残が出た点はプールの使用料から水道料金が残を生じたという点、いろいろ御説明がございましたので、全体に渡りまして了解するものでございします。

館山市が健全財政を維持することは最も必要でございますけれども、なお積極的に市長の抱負を十二分に、積極的な財政面と、健全な財政面とを合わせて強力に進めていただきたい。こういうことを要望いたしまして私の質問を終わります。

〇二〇番（君塚喜三君） 私歳入につきまして一点のみお尋ねをいたします。

五ページの市税でありますが、監査委員会におけるところの決算審査意見書の中にあるのとおり、収入の金額において二〇・五％の増をみておりますけれども、徴収率において九八％で、前年度の九八・一％を〇・一％下回っているということを指摘されているわけなんですけれども、ところで私四十七年度の予算審査の際に市税の徴収率についてあまりにも高率であり、しかも四

十五年度よりは四十六年度、四十六年度よりは四十七年度と、伸びきった支出に対してつじつまを合わせるための無理な引き上げがなされているのではないかと、このような質問をしたわけでございます。これに對しまして答弁は、実績からして決して無理ではないという答弁があったわけでございます。

ところが、四十六年度においては結果において九八％になったということは、徴収率においてやはり無理があったのではないかと。このように考えられるわけなんです、この点いかがでしょうか。もしほかにその理由があるとすれば、それを御回答いただきたいと思ひます。以上です。

〇収納課長（横溝 功君） 御指摘のとおり徴収率を落としてしまつて申しわけないと思つております。

四十五年度は九八・〇六、四十六年度は九八・〇四で〇・二落としたわけでございます。

それで私どもは全力を払つてやつたつもりでございまして、法人、市民税を除きましては積算よりもほとんどオーバールしているわけでございまして、法人、市民税が落ちたというようなことから、〇・〇二落ちてしまつてまことに申しわけないと思つております。

〇二〇番（君塚喜三君） やはり徴収率が高く見積もり過ぎてしまつたということであつたわけでございますが、そうしますと四十七年度においては、さらにまた、徴収率が高くなれるわけでございまして、しかも景気の落ち込みによつて、こういったことでさらに苦しいものになつて出てきやしないかと思ひますが、これはほかに徴収率が落ちたということについての理由はござい

ませんか。

○ 収納課長（横溝 功君） 四十七年度の場合の、御心配ありがとうございます。

全力を払っているわけでございますけれども、私どもは無理のない見込みをあげておったわけでございますけれども、やはり取れないがございますところで、取れないものがどうしてもここで若干出てくるわけでございます。大きい事業者だと、出るとすると、なかなか結果論でございますけれども、積算した数よりも相当落ち込むというように結果論はそうなってしまうわけでございます。いずれにしても趣旨を尊重しまして全力を払ってやってまいりますので、よろしく御指導願います。

○ 二〇番（君塚喜三君） 了解しました。

○ 一〇番（渡辺軍治郎君） さっき歳出の面で御質問しましたが、まだ歳入と国保の関係で五つばかり質問したいと思うんですが、歳入の面で七ページの四項、五項、たばこ売り上げの問題と、電気料金、ガス料金金の問題ですが。

まず最初にたばこの売り上げが備考欄に出ておりますが、この売り上げはどのようにして把握されるのか、その点をお伺いしたいと思います。

もう一つ、電気料、ガス料金の売り上げに対する割合でございますが、これをどのようにして把握されるのか。

次に二三ページ、二四ページの土木費寄付金と教育費寄付金の問題ですが、土木費寄付金は道路の舗装などで二千十一万一千五百一円、教育費寄付金、これはプールの寄付ですが、千四百八十五万五千円計上されております。寄付金の問題は議会のたびに問

題にしているわけですが、予算の上で、こういうふうに決算を見てもその予算どおり、大体寄付金が集められております。この寄付金は任意の寄付なら当然でありますけれども、予算上こういうふうに多額の寄付をとりますと、予算執行上どうしてもこれだけの寄付を集めなければ事業ができないという、そういう性質になると思います。

したがってこの寄付を集めるためには、どうしてもいつも問題になるように町内会とか、区長とか、そういうようなところにしわ寄せがいきまして、結局個人に割り当てようとする、そういう寄付の内容になつてゐることは、これはここに載っております各徴収の状態を見てもはっきりそういうことが言えると思うんです。

したがって予算編成上、こういう寄付を組むことは結局地方財政法に違反する割り当て寄付というふうなことになってあらわれますので、この点について今後予算編成上こういう寄付の問題をどういうふうに扱うのか、そういう点についてお伺いしたいと思います。

もう一点、これは国保会計の問題ですが、きのうの一般会計と国保特別会計との関連で質問しましたが、答弁が納得できない点がありますので、この点をお聞きしたいと思います。

一般会計のほうで五三ページ、これは民生費の繰出金として国保会計に三百五十万七千七百三十七円載っております。これは国保会計のほうでは受け入れの中にあるわけですが、扶助費の中に高齢者医療給付扶助費として五百九十九万四千七百九十八円が計上されております。おそらくこの五百九十九万四千七百九十八円という扶助費は、これは社会保険に加入している。そういう老人の扶

助費だと思ひます。

それから国保会計に繰り出されているのは、これは国民健康保険に加入している人たちの扶助費であろうと思ひます。これが国保特別会計の中には繰り出し金の受け入れもあります。

それから、そのほかの支出面で高齢者医療給付金として七百一万五千四百七十四円というものが給付金として出ております。

これは社会保険と国民保険の三割の二分の一、それから社会保険が加わったものが七百一万五千四百七十四円というふうにてていると思ひますが、きのうの答弁とはちょっと矛盾があるので、この点をちょっとお聞きしたいと思います。

○税務課長（越路良夫君） 市税関係についてお答え申し上げます。

はじめにたばこ消費税の課税標準でございますが、これは算定基礎額に対する一本当たりの単価を乗じて、これを出すわけでございますが、算定基礎額と申しますのは前年の二月から一月までの過去一年間、その一年間の売り上げ総金額、それをもろろん館山市内だけでございまして、全国的にその売り上げ金額を合計しまして、これを総売り上げ本数で除したものの、これが一本当たりの平均額になるわけでございますが、これに対して館山市内で販売された四十六年の三月から四十七年の二月までの、その間の総本数を乗じてここに出ております価格が出るわけでございます。この一本当たりの単価四十六年度を申し上げますと、一本単価三円九十五銭五厘というのが算定一本単価の価格でございます。それから電気ガス税の関係でございますが、電気料を支払ったその料金に対するものを基礎にして課税標準になるわけでございますが、これにつきましては御承知のように特別徴収制度のもとに

東京電力のほうから毎月これだけの内容だということとで申告があるわけでございますが、それによつてこの額を出すわけでございます。

なお、またガス税につきましても、ガス料金はこれは月々その内訳明細等提示の上市に申告されるわけでございますが、それによつてまとめた額で、説明欄にあるような額になるわけでございます。

○保健課長（網島憲治君） 五二ページの高齢者医療給付扶助費五百九十万四千七百九十八円というのは社会保険、いわゆる国民健康保険でない人たちの高齢者の医療給付金でございます。

それから国保の一一七ページの七百一万五千四百七十四円というのは、国保加入者の高齢者の医療給付金でございます。

以上でございます。

○市長（本間 譲君） 寄付金については、やはりそういうふうに計上してやるかというふうなお尋ねのようでございますが、これはいままでの実績によつて、そうして自主的に寄付をして下さるものとして予算に計上してやりますが、別にこちらから強制したりなんかはいたしません。六月でしたか、いつだったかこの問題でたいへんやっておりますが、私どものほうでは決して強制やなんかしません。

学校やなんかは、プールの寄付やなんかも子供が行っているからといって、やはり自発的に出していただくものと私は受け取っております。道路についても、自分らのところの道がよくなるということで寄付をして下さるというものと思ひておりますが、こつちからこうしてやつてくれとか、そういうようなことは

絶対いたしません。

とにかく皆さんの御寄付というものは大いに歓迎する必要があると思います。やはり寄付は寄付で実績に充じた額で一応計上している。それが取れない場合には一般財源でこれを補てんすると、こういう考え方で、以前にも申し上げましたとおりでございますので御了承願います。

〇一〇番(渡辺軍治郎君) たばこ消費税の関連についてですが、これは売り上げ総金額というものは館山市だけでなく、全国的なそういうものを出して、館山市の売り上げ本数で割ったものだとそういうことですが、この館山市の売り上げ本数というものはどういふふうにして調べられるのか。これをひとつお聞きしておきたいと思います。

それから電気ガス料金の問題ですが、これは東電の申告に基づいてと、こういうふうに答弁がありましたけれども、これはおそらく金額、あるいはそれに対するメーター、そういうようなものは市のほうから調査すると、要するに申告だけでまてやるということになる、業者の言うがままになって実際にそれだけの料金や売り上げがあったかどうかというようにすることを調べることはできないと思うんですが、したがって業者の言うなりになっているということは、実際の把握ができないと思いますので、そういう要するに料金に対する消費メーター、そういうものまでこちらが調査して把握できるかどうか、そういうような点をお聞きしたわけでございます。

プールや道路の寄付ですが、市長さんは任意の寄付で自発的に出してくれるならということの方がっているわけでございます

が、予算上、見込みますと、どうしてもそれだけの寄付を集めなければ、予算執行上できないわけで、したがってそれだけの寄付を集めるにはある程度自発的なものをまつということよりも組織的にやらなければ集まらないというのが実情で、それが町内会を通じ個々に割り当てられているのが事実でありまして、特に船形あたりでは毎月割り当てて町内会費と合わせて徴収するというようなことがやられているんで、実際には任意の寄付じゃなしに割り当てる寄付になっている。

北条あたりでも町内会から割り当てられてくるということ、地方財政法の五条の四項で確かに違反するような、そういうことが平気でやられているというようなことでは困りますので、予算編成に相当大きな寄付を認めているということは、い言ったようなことがどうしても出てくるということ、その点は予算編成のときに改めてもらいたいというふうに思います。これは何回繰り返しても押し問答のような形でいつも終わりますので、この点は寄付で市の財政をまかなっていくというのは、あくまでもこれはやめるべきだというふうに考えます。今後こういう点で検討してもらいたいと思います。

それから国保税の関係ですが、これは福祉事務所調べてもらったんですが、国保の関係では三千六百五十二件で年間七百一十七万八千七百七十円の支出しております。社会保険は三千六十九件で五百九十万八千八百七十円の支出が出ております。国保関係の七百一十七万八千七百七十円の二分の一は市費で負担するわけですから、これが国保会計に繰り出されているわけです。そういうことで繰り出された三百五十万七千七百三十七円と五百九十万四千七百九十八円

というのは、これは社会保険の額であります。これを合計したのが高齢者給付金として国保会計で出されると思うんですが、この支出の中の七百一万五千四百七十四円が、これが社会保険だけだという、さっきそういうような回答があったと思うんですが、ちょっとこの点わかりませんが、両方合計いたしますと九百四十一万二千五百三十五円とこういうふうに大体なるわけでございますが、七百一万五千四百七十四円との違いはどういうふうに思っているのか、この点についてお願いしたいと思います。

○ 税務課長（越路良夫君） たばこ消費税について先ほど申し上げました平均単価は、これは毎年三月になりますと官報によって揭示されたその単価が出るわけでございます。

それで館山市内の総本数が四十六年度につきまして、これは本数で申し上げますと一億四千二百九十五万本余になるわけでございます。

この徴収方法につきましては特別徴収でございますので、毎月の報告がございまして。それ以外に実際に専売公社館山出張所を調査いたしました、その内容については確認してございます。

なお、また電気ガス税の関係ですが、これにつきまして東京電力、あるいはガス会社等に出向きまして、その内容についても調査してございます。

○ 一〇番（渡辺軍治郎君） メーターまで調査しますか。

○ 税務課長（越路良夫君） 実際に一軒一軒回るということはどうして不可能でございますが、この調査の内容につきましては、東電の資料、これは御承知だと思いますが、現在電算処理というふうな関係もございまして、そこに各戸数一軒一軒のものが実際に

検針結果があらわれているわけでございまして、そのものの内容を確認ということで、現地においての調査はこれと異なっていると思いますが、そこに出てきますメーター表によって、東電の表示によって確認をしている。こういうことでございます。

○ 保健課長（網島憲治君） 五二ページの高齢者医療給付扶助費というのは社会保険関係の高齢者医療給付分でございます。

それから一一七ページ、七百一万五千四百七十四円というのは国民健康保険の被保険者の高齢者医療給付金でございます。以上。

○ 一〇番（渡辺軍治郎君） そうすると、国保関係の七百一万五千四百七十四円というのは、国保関係の高齢者の医療給付金とこういうふうな御答弁がありました。その中には県の二分の一と市費負担の二分の一が含まれた額だと思いますが、それで間違いないか。

○ 保健課長（網島憲治君） そのとおりでございます。

○ 一〇番（渡辺軍治郎君） そういたしますと、扶助費のほうから繰り出されているものが、これが当然三割のうちの二分の一というふうになるわけですが、きのうの御答弁ではこの繰り出し金が国保のほうにないわけです。そうしますと、結局その分はどこから国保会計の中に繰り入れられるのか、この点について伺います。

○ 保健課長（網島憲治君） 一一二ページの県支出金に高齢者医療給付改善事業補助金で三百三十三万七千円、それから他会計繰り入れ金の中で一般会計繰入金として三百五十万七千七百三十七円、このようになっております。

ただし、県支出金につきましては申請の関係上、差額については四十七年度に計算される予定でございます。

○一〇番（渡辺軍治郎君） この四十六年度の決算でいけば、これは当然県の負担金と市の負担金が国保会計に繰り入れられて、そ

して老人医療費が社保と国保との費用が出ておるわけですが、四十七年度の予算の中には社会福祉関係では一千五百万の予算が組まれておりますが、きのうの答弁では一千五百万は社会保険だけだというふうな答弁がありました。一体国保に繰り入れる分はどこから繰り入れるのか、この点について伺います。

○保健課長（綱島憲治君） 国保に一般会計より高齢者医療給付分としては繰り入れはございません。

○一〇番（渡辺軍治郎君） そうしますと、国保会計に一般会計からの老人医療費の扶助費の二分の一では、当然見込みとしても繰り入れなければならぬのが繰り入れられてないということになりますと、その分は保険税の対象になっていくと思うんです。

保険給付金から、国や県、あるいは市の負担金なり、そういうようなものを差し引いた残りの給付金が、これが保険税の対象になるはずであります。となりますと、一般会計から繰り入れのな

いその分が、当然九百二十九万九千円ですか、これはきのうも示

しましたけれども、保険税に当然はねかえってくると考えられますが、この点はというふうに考えられますか。

○保健課長（綱島憲治君） そのとおりでございます。

保険税への当然のはね返りということになります。ただ四十五年度はこの間も説明いたしましたとおり、四十五年度の六月に県が、もちろん県は四月当初からやる予定でいたわけでございます

けれども、事務的な関係で私のほうは四十六年度六月から議会の議決をいただきまして、遡及をして四月一日から施行はいたしましたので、年度途中でございまして、国保のほうでは書いてございましており高齢者医療給付改善事業補助金、いわゆる高齢者の医療給付の改善事業というふうな名称で仕事を実施したわけでございます。年度途中でございまして、一般会計から繰り入れをして措置をした、四十六年度は。

四十七年度は、制度本来、いわゆる高齢者医療給付金は国保の給付改善事業ということでございますので、国保の会計の中でまかないをしよう、財政措置をする、こういうことでございます。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 国保の改善事業でやるとすると、老人医療費は市費の負担分はなくなるということになりますか。

四十六年度予算では一般会計からの繰り入れをして、一般会計要するに国保の関係の二分の一、社会保険と合わせて支出するということになっておりますが、四十七年度予算で改善事業として、そういうふうにかわつたとすれば、社会福祉の国保の負担金というものはなくなるのかどうか、その点はというふうにお考えになりますか。

○保健課長（綱島憲治君） 国保事業の給付改善事業ということでございますので、当然結果とすればそういうことになります。

○一〇番（渡辺軍治郎君） それは問題だと思ふんです。

老人医療費の問題は老人福祉の対策として、これは当然一般会計から出されるべきものです。もし一般会計から老人福祉が出ないとする、これは社会福祉にならない。保険税で支払うことで老人福祉の扶助費がふえればふえるほど保険税にはね返っていく、

保険税で負担するというになれば、社会福祉じゃなくなるわけでございます。そういう点はどういうふうにお考えになつてゐるのか。

○保健課長（綱島憲治君） この場合県が、いわゆる高齢者の医療給付を国保改善事業の中で行えば、その負担額の二分の一の補助をすると、こういうことでございます。

それによつて給付改善事業として取り上げたわけです。これが一般会計で支出された場合には県の補助金はない。

こういうことでございますので、そういう取り上げ方をして仕事を進めたわけでございます。

○一〇番（渡辺軍治郎君） そういうふうな国保事業の改善としてやられますと、国が来年から三分の二負担して各市町村が六分の一づつ負担すればいいということになるのが、これはちょっとおかしいと思うんですが。

それから六分の一が、結局保険税にかぶつていくというふうなことでは国保の関係というものが、社会保険のほうは全部市費で負担して、国保会計は一般会計から一文も払わないということになって、非常にそこに矛盾が出ると思うんです。

そういう点はどういうふうにお考えになりますか。そして今後どういうふうにやつていこうとするか、その点をお聞きしたいと思ひます。

○保健課長（綱島憲治君） お答えいたします。

四十七年度の実施方法につきましては、現在のところ内容についてはわかつておりませんけれども、いま国は国保の給付改善事業という形として出してゐないわけです。

高齢者の医療給付というのは、各市町村が独自の政策として取り上げたわけでございます。ですから、国保だけで、社会保険をやらないで、国保の単独事業としてやつてゐるのが大方の市町村でございます。

県下で社会保険並びに国民健康保険を同時に実施してゐるといふところはようやく四月一日で六、七カ市町村しかございません。あとは高齢者の医療給付をやつてゐるといふても、国保の給付改善事業としてやつてゐるだけで、社会保険のほうはやつてないわけです。

そういうことでございますので、来年度につきましては現在のところ法律は老人福祉法の一部改正というところで行なわれますので、その改定の取り扱いにつきましては、今後二十三日ごろに公表をされる予定と聞いておりますけれども、詳細はわかつておりません。

私のほうで実施しております、いわゆる国保会計で、それは改善事業として取り上げた、こればそのように、渡辺さんが考えるような考え方であれば、矛盾してゐるとおっしゃられれば矛盾ということも言えると思ひます。

以上。

○議長（吉田勇治郎君） 御発言を求めておられるようであります。暫時休憩いたしたいと思います。暫時休憩いたします。

午後二時 休憩

午後三時三分 再開

○議長（吉田勇治郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

○市長（本間 譲君） 国民健康保険会計から老人の福祉、医療費

を出すことについてのいろいろの御意見がありました、私は住民に全く公平だということばなかなかできないわけでありますが、いろいろのお話も伺いましたので、これにつきまして検討しまして、そしてその結果はこの次の機会に皆さま方におはかりをしてこれをおかえるべきものであればかえる。その線で検討いたしたいと思えますから、よろしく御了承願いたいと思います。(拍手)

〇一〇番(渡辺軍治郎君) たいだい市長さんのお話では、検討いたしました、今後特に老人福祉問題は市長さんが力を入れている問題ですから、市長さんに善処していただくということで、私の質問を終わります。

〇六番(栗原一雄君) 六八ページ六款一九節負担金補助及び交付金についてでございますが、千六百六十三万千八百六十円は前年度の五百九十七万七十四円に対し約二・八倍である、そういったことなんですが、農業振興に対する新しい、いわゆる補助金でございますので、決して新しい事業を設けるということは悪いことではございません。しかしながら伸び率が二・八倍という、そういったことを考えたときに、十分そういったものが効果的に利用されているかどうかということなんですが、新しい事業が設けられたということと、あと継続事業として、補助金として出しているものは幾つあるか。それをお尋ねしたいと思えます。

〇農産課長(石井 謀君) お答え申し上げます。

農業振興費の負担金の伸び率が前年に比較して二・八倍の御質問でございますが、御承知のように農業振興の補助金につきましては、利子補給等を除いてほとんど毎年新しい事業を実施しているわけでございます。

そこで、四十六年度におきまして大きく伸びました一つの原因は、たまたま神戸地区のレタスの集出荷所の新設工事が農林省で認められまして、この集出荷所の総事業費が一千万あるわけでございますが、その国、県合わせまして約六十八%の助成があったわけでございますが、そういうような新しい事業が四十六年度に大きくウェートを占めたわけで、そのようなわけになっているわけでございます。

あとの継続的事业と申しますのは、先ほど申し上げましたように、利子補給関係で継続的に行なっておりますものが、土地改良の利子補給補助金、あるいは近代化資金等でございます。

それから園芸災害復旧利子補給、こういったような精農資金の関係は、継続的に助成しておるわけでございます。

〇六番(栗原一雄君) 昨年のドジョウの養殖事業の件でございますが、昨年は確か三年ぐらいは赤字だ、それ以降はよろしいのじゃなからうかというようなお答えをいたしておりますが、その後の経過についてちょっとお尋ね申し上げます。

〇農産課長(石井 謀君) ドジョウの養殖でございますが、これは四十五年から実施したわけでございますが、前回申し上げましたのはドジョウの十アールあたりを養殖する場合に、これは全部が全部というわけではないのですが、大体の標準が十三万九千円程度の経費がかかるわけでございます。

このうち主なものは、資材費がスレート板とか畔畔板とか、ドジョウの逃亡用に用いる資材費が約九万かかるわけでございます。そのほかに種苗費が四万、こういうことで当初は資材費等が相当のウェートを示めるわけでございます。二年目、三年目から

は、そういうような資材費が出なくなるわけでございます。

私どもは現在約三十名の養殖者があるわけでございますが、その内容等もいちいち検討はできておりませんが、ドジョウ養殖組合の役員等という総会、あるいは役員会等で話し合っているわけでございますが、大体三年目程度から、そのいままでも逃がした稚魚がだんだんとふえていくというようなことで、三年目から収益になってくるわけでございます。こういうことも聞いておるわけでございます。

館山市の総体の数量がどのくらいあったかということについては、はっきりした数量がつかめておりません。

〇六番（栗原一雄君） 農業振興という意味から補助金を出す以上、やはり行政による指導、育成を行なわなければならぬ。そういった観点から考えまして、当然実態を把握していると思いますが、要望として十分効果的に利用されるよう希望いたしましたので質疑を打ち切ります。

動

議

〇二四番（西村真次君） この際、議会運営協議会を代表いたしますので動議を提出いたします。

ただいま議題となっております認定第一号乃至第七号昭和四十六年度一般会計並びに特別会計決算に対する質疑につきましては、なお他に御発言もあろうかと思いますが、ひとまずこのへんで質疑を打ち切りまして、さらに詳細に内容を検討するため、決算審査特別委員会を設置してこれに一括付託し、慎重に審査をお願いしたいと思います。

なお、その委員の数は十名とし、選任の方法は議長、監査委員を除いて選考し、議長の指名によりたいと思います。

なにとぞ満場の御賛同をたまわりますようお願いいたします。

決算審査特別委員会の設置・委員の選任・付託

〇議長（吉田勇治郎君） ただいまの二四番議員君の動議を議題といたします。

本動議は認定第一号乃至第七号についての質疑を打ち切り、さらに慎重審査の必要上、決算審査特別委員会を設置し、これに一括付託する。その委員の数は十名、選任の方法は議長及び監査委員を除いて選考し、議長の指名によることとあります。

おはかりいたします。本動議のとおり決することに御異議ありませんか。―御異議なしと認めます。よって決しました。

これより決算審査特別委員会の委員を指名いたします。

四番議員 鈴木 稔君 八番議員 石井 武敏君

十一番議員 山本 昇君 一四番議員 伊賀 多朗君

一九番議員 島野茂樹郎君 二二番議員 田村源治郎君

二三番議員 菊井 敏博君 二七番議員 望月 照正君

二八番議員 田中 祿郎君 二九番議員 秋山六三郎君

以上十名、決算審査特別委員会の委員に指名いたします。これに御異議ありませんか。―御異議なしと認めます。よって決しました。

重ねておはかりいたします。ただいま決定されました決算審査特別委員会に認定第一号乃至認定第七号昭和四十六年度一般会計並びに特別会計決算を一括して付託し、後日の本会議まで審査を

了し、その経過並びに結果について報告を求めるようにいたしました
と思います。これに御異議ありませんか。――御異議なしと認
めます。よって決しました。

ただいま選任されました決算委員の方々は、のちほどの議場
において正副委員長の互選を行いますので御了承願います。

延 会 午後三時十五分延会

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。明九月十四日から
二十四日までの十一日間委員会審査のため休会いたしたいと思
います。これに御異議ありませんか。――御異議なしと認めます。
よって九月十四日から二十四日までの十一日間休会することに決
定いたしました。

おはかりいたします。本日の会議はこれにて延会いたしたいと
思います。これに御異議ありませんか。――御異議なしと認めま
す。よって本日はこれにて延会することに決しました。

次会は九月二十五日午前十時開会いたします。その議事は認
定第一号乃至第七号昭和四十六年度各会計決算にかかる決算審査
特別委員会委員長の審査の経過並びに結果の報告、討論、採決及
び追加議案の審議いたします。

○本日の会議に付した事件

一、認定第一号乃至認定第七号

